

医心 伝心

本年のスギ花粉飛散は「平年並み」

県医師会理事 河合 晃充

さて、年が明けて平成28年となりました。スギ花粉の飛散開始が近づいてきています。富山県森林研究所は、11月下旬に県内14カ所で行ったスギ雄花の着花量調査の結果を踏まえて、今年のスギ花粉飛散量の予測を発表しています。それによると今年のスギ花粉飛散量は平野部で1cm²当たり約2900個程度と平均値の2855個と同程度で、「平年並み」の見込みです。スギ花粉の飛散量は雄花が着花し始める夏の天候に強く影響を受け、気温が高く降水量の少ない年ほど多く着花する傾向があります。平成27年の夏の平均気温はほぼ平年並でしたが、降水量は平年より少なかったことから、着花にはやや適した気候となりました。ただ、スギ花粉の飛散量は一年おきに豊凶を繰り返す傾向があり、昨年はスギ花粉飛散量が多い年だったため、その反動で今年のスギの着花量（花粉生産量）は平年並に抑えられたと考えられます。

県医師会花粉症対策委員会では2年前より、ウエザーニューズ社のポルンロボというリアルタイムにスギ花粉の飛散状況が把握することができる機器を県内各地に設置し、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどのモバイル機器などで、誰でもが無料で情報が得られるサービスを始めています。今年も県内13カ所に機器を設置し、県医師会のホームページよりリンクという形で情報提供を行う予定です。また、従来のダーラム法という飛散スギ花粉数を実測する方法と比較し、正確性の

確認を並行して行っています。

スギ花粉症に対する対策、治療としては、本格飛散の約2週間前ぐらいから抗アレルギー剤等の使用を開始する初期治療と呼ばれる治療法の有効性が確認されてきています。飛散開始日は気温に大きく左右されます。1月からの積算温度がある温度に達すると開花し、飛散が開始されます。このため、1月と2月の気温が低ければ開花は遅れ、気温が高ければ開花は早まります。今年は年頭から平年より気温が高めなため、飛散開始が早くなる可能性が高くなってきています。今後の気温の経過に注意していかなければなりません。

スギ花粉症をはじめとして、アレルギー疾患に対する新しい治療法として舌下免疫療法が加わりましたが、数年間に渡る治療が必要であり、効果の程は数年後でないと結果は出てきません。費用対効果の結論はさらに先の話になるでしょう。また、花粉飛散数減少のため、森林研究所などによる無花粉スギの植林も徐々に進んでいくものと思われませんが、すぐにすべてが切り替わるものではありません。治療法も環境も大きく変わるには時間がかかりそうです。それまでは、迅速で正確な情報が必要とされると思われれます。少しでも皆様に貢献できるように調査および情報発信を行っていかうと思っています。